

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

### 【評価実施概要】

|               |  |       |            |
|---------------|--|-------|------------|
| 事業所番号         | 4090600059                               |       |            |
| 法人名           | 社会福祉法人 年長者の里                             |       |            |
| 事業所名          | グループホーム 大蔵                               |       |            |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県北九州市八幡東区大蔵3丁目2-1<br>(電話) 093-652-3305 |       |            |
| 評価機関名         | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部                   |       |            |
| 所在地           | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階                |       |            |
| 訪問調査日         | 平成22年3月3日                                | 評価確定日 | 平成22年3月29日 |

### 【情報提供票より】(平成22年2月13日事業所記入)

#### (1) 組織概要

|       |                 |                       |       |
|-------|-----------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 21 年 4 月 1 日 |                       |       |
| ユニット数 | 1 ユニット          | 利用定員数計                | 9 人   |
| 職員数   | 9 人             | 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 | 5.6 人 |

#### (2) 建物概要

|      |                             |  |  |
|------|-----------------------------|--|--|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り<br>3 階建ての 1 階部分 |  |  |
|------|-----------------------------|--|--|

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                                    |                |              |
|---------------------|------------------------------------|----------------|--------------|
| 家賃(平均月額)            | 45,000 円                           | その他の経費(月額)     | 管理費 45,000 円 |
| 敷金                  | 無                                  |                |              |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 入居一時金(1,260,000円)<br>保証金(200,000円) | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 84ヶ月       |
| 食材料費                | 朝食                                 | 円              | 昼食 円         |
|                     | 夕食                                 | 円              | おやつ 円        |
|                     | 1月当たり 45,000 円                     |                |              |

#### (4) 利用者の概要 ( 2月13日現在 )

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性   | 3 名  | 女性 | 6 名  |
| 要介護1  | 1 名       | 要介護2 | 4 名  |    |      |
| 要介護3  | 3 名       | 要介護4 | 0 名  |    |      |
| 要介護5  | 1 名       | 要支援2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 82.2 歳 | 最低   | 75 歳 | 最高 | 94 歳 |

#### (5) 協力医療機関

|         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 協力医療機関名 | たつのおとしごクリニック・新日鐵八幡記念病院・ふたむら歯科医院 |
|---------|---------------------------------|

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州市都心部にも近く、また緑豊かな自然環境を残す大蔵地区に、広大な敷地を有する「年長者の里」は位置しており、多種多様な福祉・医療サービスを提供する高齢者複合施設を展開している。昨年開設された「グループホーム大蔵」は、3階建ての1階に位置しており、2・3階は住居型有料老人ホーム「パレス八幡」が併設されている。これまでに築いてきた実績や経験を活用して開設されており、1年目とは思えない充実を見せる。運営推進会議には入居者全員の出席があり、発言の機会ともなっており、特筆すべき点である。同様に社会参加の機会も多く、訪問当日のひな祭りの合同行事には、家族の着付けによる和装をまとった入居者の方が、とても楽しそうに参加している姿があった。外出の機会も多く、散歩の途中で花を摘みホーム内の到る所に飾ったり、保育園に立ち寄り一番の笑顔を見せてくれたりと、日常的に出掛けている。また出勤してきた職員に「お帰り」と声がかかり、家族同様の関係性の中で、趣味活動や生活リハビリに取り組みながら、本人本位の日々の暮らしとなるよう支援している事業所である。

### 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 初めての外部評価となる。  |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
|      | 職員全員で自己評価作成に取り組み、この1年間を振り返る機会としている。   |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
|      | 2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、入居者全員の参加があり、発言の機会となっており、特筆すべき点である。家族・大蔵3丁目町内会長・在宅支援センターケアマネージャー・地域包括支援センター職員等の出席により、状況報告や意見交換が行われ、地域との交流についても話し合われている。     |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)  |
|      | ホームの入り口に意見箱を設置している。運営推進会議への家族の参加も多く、率直な意見交換の場となるよう取り組んでいる。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしており、直接意見を頂くことも多い。法人として、「年長者の里 福祉オンブズマン委員会」を設置しており、第三者による相談窓口を案内している。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
|      | 日常的な散歩の途中での挨拶や会話の機会を大切にしている。「納涼祭」や「盆踊り大会」がホーム前の広場で開催され、設営等にも職員が協力し、地域住民等、千人を超える参加を得て盛況に開催されている。散歩の途中で近隣の保育園に立ち寄り、子ども達とふれあう事は、何よりも一番の笑顔を見る事ができる。     |

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|-------|-----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |   |  |       |                                   |
| 1. 理念と共有              |    |   |  |       |                                   |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念   | 法人理念のもとに、「ゆっくり・穏やかに、のんびりと楽しく笑顔で暮らせるように」「自分らしさの実現に向け、気づきと思いやりの精神で支援します」という理念を独自に掲げている。また「めくばり・気づばり・心くばりと地域との交流」をモットーとしている。                        |       |                                   |
|                       |    | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  |  |       |                                   |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み   | ホーム内の、目に付きやすい場所に理念を掲示し、それに基づいた日々の支援となるよう取り組んでいる。   |       |                                   |
|                       |    | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                   |  |       |                                   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |  |       |                                   |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい  | 日常的な散歩の途中での挨拶や会話の機会を大切にしている。「納涼祭」や「盆踊り大会」がホーム前の広場で開催され、設営等にも職員が協力し、地域住民等、千人を超える参加を得て盛況に開催されている。散歩の途中で近隣の保育園に立ち寄り、子ども達とふれあう事は、何よりも一番の笑顔を見ることが出来る。 |       |                                   |
|                       |    | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている        |  |       |                                   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |  |       |                                   |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用   | 今回が初めての外部評価となる。職員全員で自己評価作成に取り組み、この1年間を振り返る機会としている。評価結果を運営推進会議等で示し、家族や職員等との意見交換を行い、サービスの向上につなげていく予定としている。   |       |                                   |
|                       |    | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる             |  |       |                                   |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み   | 2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、入居者全員の参加があり、発言の機会となっており、特筆すべき点である。家族・大蔵3丁目町内会長・在宅支援センターケアマネージャー・地域包括支援センター職員等の出席により、状況報告や意見交換が行われ、地域との交流についても話し合われている。  |       |                                   |
|                       |    | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている |  |       |                                   |

## グループホーム 大蔵

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | 市町村との連携  | 地域包括支援センターへ、入居者とともに運営推進会議の案内を届けたり、行政への手続きに出掛ける際にも、一緒に出掛けるようにしている。「市政だより 北九州」や「福岡県だより」の配布を行っている。「年長者の里」としては、北九州市の委託事業として、地域配食サービス事業等を受託し、また地域包括支援センターへの職員派遣を行っている。 |      |                                  |
|                 |    | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる   |   |      |                                  |
| 7               | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用   | 管理者・職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の研修に参加し、職員会議において報告・伝達し、情報を共有している。玄関には制度に関するリーフレットを準備し、家族や関係者への情報提供が行なえるようにしている。   |      |                                  |
|                 |    | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。   |   |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |   |      |                                  |
| 8               | 14 | 家族等への報告  | 毎月、担当職員による手書きの報告を個別に作成し、写真を添えて家族に送付している。また状況の変化に応じて、電話連絡を行っている。   |      |                                  |
|                 |    | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている  |   |      |                                  |
| 9               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映   | ホームの入り口に意見箱を設置している。運営推進会議への家族の参加も多く、率直な意見交換の場となるよう取り組んでいる。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしており、直接意見を頂くことも多い。法人として、「年長者の里 福祉オンブズマン委員会」を設置しており、第三者による相談窓口を案内している。               |      |                                  |
|                 |    | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   |   |      |                                  |
| 10              | 18 | 職員の異動等による影響への配慮  | 現状として異動は行われていない。今後、職員のスキルアップ等による法人内での異動の可能性はあるが、馴染みの関係を大切にするためにも、最小限となるよう配慮している。  |      |                                  |
|                 |    | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている   |   |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |   |      |                                  |
| 11              | 19 | 人権の尊重  | 職員の募集・採用にあたっては、ヘルパー2級以上という必須条件は設けているが、人柄ややる気を重視しており、年齢や性別による排除は行っていない。法人として、3Y職場(遣り甲斐のある・優しい心・ヤッターの達成感)を目指し、職員用保育室を準備する等、働きやすい環境づくりへの積極的な取り組みが行われている。             |      |                                  |
|                 |    | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 |   |      |                                  |

## グループホーム 大蔵

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 12                        | 20 | 人権教育・啓発活動  | 法人として、職員採用時のオリエンテーションの中で、人権尊重に関する研修を行っている。運営指導マニュアルの中には、高齢者虐待防止や身体拘束等について、特に詳しく方針が作成されており、人権尊重を重視する姿勢が伝わる。                             |     |                                  |
|                           |    | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。                              |  |     |                                  |
| 13                        | 21 | 職員を育てる取り組み   | 法人として、充実した内容での年間研修計画を作成しており、また外部研修についても積極的に参加するよう努めている。  |     |                                  |
|                           |    | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている             |  |     |                                  |
| 14                        | 22 | 同業者との交流を通じた向上  | 同業者からの問い合わせや見学の申し入れを受け、交流や意見交換、情報共有の機会としている。また入居者とともに他事業所へ出向く事もある。   |     |                                  |
|                           |    | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      |  |     |                                  |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>  |    |  |  |     |                                  |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 |    |  |  |     |                                  |
| 15                        | 28 | 馴染みながらのサービス利用  | それぞれの担当職員を配置し、担当者を中心とした馴染みの関係づくりを行なっている。本人・家族の面接により、課題や希望の把握に努め、必要に応じて法人内他事業所の活用も視野に入れている。見学を随時受け付けており、雰囲気を感じてもらったり、入居者と会話してもらったりしている。 |     |                                  |
|                           |    | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している |  |     |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |    |  |  |     |                                  |
| 16                        | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係   | 入居者一人ひとりの得意分野や趣味を把握し、一緒に行う中で、達成感を共に味わったり、教えてもらったりすることで、同じ時間や同じ場を共有している。  |     |                                  |
|                           |    | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                        |  |     |                                  |

## グループホーム 大蔵

| 外部                                     | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|--|----|--|---|-----|---|
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>       |    |  |   |     |   |
| 1. 一人ひとりの把握                            |    |  |   |     |   |
| 17                                     | 35 | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 入居時に本人・家族等からの面接により、「生活と安全のカルテ」を作成し、日々の暮らしのかかわりの中でも、言葉や表情、行動等から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。  |     | 日々の暮らしの中で、思いや意向をくみ取りながら、本人本位の支援に努めている。今後は生活歴や趣味、得意分野等の情報等を積み重ね、入居者の全体像により近づきながら、介護計画作成や役割りを発揮できる場面等に活かしていく事にも期待します。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し         |    |  |   |     |   |
| 18                                     | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | アセスメントは本人・家族との協働により作成され、担当者会議の中で、ケアマネージャー及び計画作成担当者、職員間にて集約され、具体的な計画目標が設定されている。特に排尿の自立に向けては、細かい対応が示されており、確実な実施とその後のモニタリングにつなげている。看護計画書が作成・共有されており、医療との連携体制及び支援体制の概要として整備されている。 |     |   |
| 19                                     | 39 | 現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期での見直しを行うとともに、状況の変化に応じて随時見直しを行っている。ケアプラン総括としてモニタリングを実施し、担当者会議において、本人・家族・職員・医療関係者等の意見を集約し、見直しにつなげている。   |     |   |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |  |   |     |   |
| 20                                     | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                                     | 併設される有料老人ホームと供用で使用できるフィットネスルームや岩盤浴等があり、大広間での行事や音楽会に参加している。法人として多様な福祉サービスを提供しており、必要に応じて連携を図りながら、適切なサービスを提供することができる。  |     |   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |  |   |     |   |
| 21                                     | 45 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                      | 入居前から、近接する、北九州市物忘れ外来協力医療機関である「たつのおとしごクリニック」を主治医としている方が多く、その充実した連携を活かして健康管理が行われており、本人・家族の安心にもつながっている。  |     |   |

## グループホーム 大蔵

| 外部                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 22                             | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有   | 「看取りに関する指針」を示し、家族に同意を得ている。本人・家族の安心と納得を得られるように、状況の変化に応じて話し合いを重ねており、方針を共有している。                                      |     |                                  |
|                                |    | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している |   |     |                                  |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |  |   |     |                                  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                |    |  |   |     |                                  |
| (1) 一人ひとりの尊重                   |    |  |   |     |                                  |
| 23                             | 52 | プライバシーの確保の徹底   | マナーアップ研修及び個人情報保護法を重点にした、入居者一人ひとりのプライバシーの確保の徹底を目指している。必ず職員全員参加として義務付け、意識を高めていく取り組みが行われている。                         |     |                                  |
|                                |    | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                      |   |     |                                  |
| 24                             | 54 | 日々のその人らしい暮らし   | 個別支援を重視し、その日その時の入居者の要望に応えられるよう取り組んでいる。一人ひとりの生活習慣やリズムを把握し、自己決定や自立支援の場面に大切にした支援に努めている。                              |     |                                  |
|                                |    | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している        |   |     |                                  |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援  |    |  |   |     |                                  |
| 25                             | 56 | 食事を楽しむことのできる支援   | 炊飯はホームで行い、主菜は厨房からの提供となり、ホームで盛り付けを行っている。配膳や食器洗い、後片付けに積極的な参加があり、職員とともにやっている。食事メニューについての入居者の方々の評判も良く、多くの方が全量摂取されていた。 |     |                                  |
|                                |    | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている              |   |     |                                  |
| 26                             | 59 | 入浴を楽しむことができる支援   | 週3回以上の入浴を基本としており、希望があれば毎日でも対応している。入居者の希望や体調、状況等に合わせ、柔軟に対応している。  |     |                                  |
|                                |    | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している             |   |     |                                  |

## グループホーム 大蔵

| 外部                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |   |  |     |                                   |
| 27                            | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  | 配膳や食器洗い等に、積極的な参加があり、暮らしの活性化へ向けての場面づくりが、的確に行われている。訪問当日(3月3日)は、ボランティアの方々による「ひな祭り」の行事も企画されており、きものを着て(家族による着付けがなされていた)とても楽しそうに参加している姿があった。 |     |                                   |
|                               |    | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている        |  |     |                                   |
| 28                            | 63 | 日常的な外出支援  | ホーム傍の広場には、多種多様な木々や草花、家庭菜園等があり、また周辺には緑も多く、四季折々の彩りを楽しみながら日常的に散歩に出掛けている。また買い物やドライブ等の外出の機会も多く、充実した外出支援が行われている。                             |     |                                   |
|                               |    | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                  |  |     |                                   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |   |  |     |                                   |
| 29                            | 68 | 鍵をかけないケアの実践   | 日中は、施錠していない。管理者・職員は、鍵をかける事の弊害を理解しており、見守りや所在確認を行いながら、自由な暮らしを支援している。   |     |                                   |
|                               |    | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる            |  |     |                                   |
| 30                            | 73 | 災害対策  | 年2回、昼夜を想定した避難訓練及び消防訓練を実施している。スプリンクラー・自動火災報知機・防火扉等が設置済みとなっている。地域への協力依頼や連絡体制の確立を行い、緊急避難場所を確保している。  |     |                                   |
|                               |    | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている |  |     |                                   |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |   |  |     |                                   |
| 31                            | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援  | 法人の管理栄養士による、栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、バラエティに富んだメニューとなっている。食事・水分摂取量を把握・記録し、個別の状況に合わせて柔軟な対応が行われている。  |     |                                   |
|                               |    | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている            |  |     |                                   |

## グループホーム 大蔵

| 外部                      | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |    |   |   |     |                                   |
| (1) 居心地のよい環境づくり         |    |   |   |     |                                   |
| 32                      | 83 | 居心地のよい共用空間づくり   | ホーム前の広大な広場には、多種多様な木々や草花、また菜園もあり、入居者自身によって摘み取られた草花が室内の到る所に活かされている。ホーム内はシックな色調でまとめられ、落ち着いた雰囲気となっており、ソファーやマッサージチェアが配置され、くつろげる場所がある。玄関には、個別の靴箱が設置されており、外出時には選ぶ楽しみもある。 |     |                                   |
|                         |    | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている |   |     |                                   |
| 33                      | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮  | 各居室には床暖房が設置されており、快適な居住環境への配慮が行われている。使い慣れたベッド・筆筒・布団・小物や思い出の品等を持ってきてもらい、安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。  |     |                                   |
|                         |    | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                     |   |     |                                   |